

和泉地区「2004・明治大学勝負の年は<和泉>から」

著者	山口 康夫
雑誌名	明治大学情報科学センター年報
巻	15
ページ	13-13
発行年	2003-11-01
URL	http://hdl.handle.net/10291/4300

【論 壇】

2004・明治大学勝負の年は「和泉」から

和泉システム課長 山口 康夫

和泉キャンパスに新体育館が完成（1996年8月）して以来、約10年ぶりに新しい建物ができる。その建物は和泉新教育棟（仮称）で、地下1階、地上7階、鉄骨造、延床面積13,200㎡の、最新のマルチメディア設備をそろえたインテリジェントビルである。竣工は2005年2月の予定で、同年度の授業から使用される。

まだ、基本設計が承認された段階だが（2003年7月9日現在＝和泉新教育棟建設委員会）、この建物には、和泉キャンパスの21世紀における新しいリベラルアーツの方向性を決定づける要素が、かなり含まれていると思う。それは今までの情報教育・視聴覚教育の枠組みを超えた授業（CALLシステム、e-learning、遠隔授業等）が展開されていく可能性である。さまざまな新しいメディア機器を多くの教員が有効活用し、高度情報化社会に適応した和泉キャンパスにおける最新かつ多様な教育が実施されていくことになる。

しかし、和泉新教育棟オープン直前の2004年度は明治大学、とりわけ和泉キャンパスにとって非常に重要な年度となる。現状の施設・設備で、51年ぶりの新学部開設（情報コミュニケーション学部＝1953年経営学部設置以来）と7講時制の実施による新しい授業展開を乗り切っていかなければならないのである。また、この6月18日に学部長会で承認された「2004年度教育研究年度計画書の学長方針」に示されている「基本方針」「和泉地区の教育・研究環境整備」「教養教育の確立」を踏まえ、和泉委員会は長・中期計画書の中で「和泉キャンパスの再生にむけて」と題し「リベラルアーツの拠点に！」をモットーに「和泉キャンパスの再生プログラム」を10項目に分け、詳細な説明があり、「和泉キャンパスがキャンパスとしての特色と主体性を持つことが、『専門教育』を中心とした駿河台キャンパスとの有機的連携を創出し、大学全体の発展につながっていく」と、和泉キャンパスの重要性を強く訴えている。

更に、教育の情報化については、「教育の情報化構想を練るためのプロジェクトグループ」が以前、学長に答申した「学生等利用者サイドに立った情報環境整備、教育・研究支援システムの構築等総合的な教育の情報化構想」を、組織運営体制の整備等を含め「内容を詰め、教務部委員会の下に置かれたWGに諮って早急に結論を得たい」と、2004年度同計画書の学長方針で示している。

これらの状況の中、情報システム事務部の一員として、関係諸機関と連携を密にし、大学全体における和泉キャンパスの位置付けを常に念頭に置きながら、諸施策について迅速・的確に対応していきたい。